

# 活動紹介 サステナブルな社会を実現する

～株式会社クレアン 藺田綾子

株式会社クレアン

社名のCre-enとは CREATEUR「創造する人」 + ENTREPRENEUR「起業家」から命名  
 持続可能な社会の創造に向けた起業家精神を持つ人々の集まり

設立：1988年8月

代表者：藺田綾子

株式会社クレアン 代表取締役  
 サステナビリティ日本フォーラム事務局長  
 社会的責任投資フォーラム理事

歩み：

- 1988年 マーケティング会社として設立
- 1995年 「地球は今」全十巻編集制作
- 2000年 レポート企画制作支援ビジネススタート
- 2008年 CSRコンサルティング部署 立ち上げ
- 2010年 本社を東京に移転

事業内容：

CSRコンサルティング・CSRコミュニケーション

レポート制作支援：延べ **364** 社

トップインタビュー：延べ **184** 社

ステークホルダー・ダイアログ：延べ **140** 社

## CSR報告書支援実績 (2009年～2010年)

### 2009年【39社】



【富士ゼロックス】  
 第13回サステナビリティ報告書  
 (東洋経済新報社主催) 最優秀賞受賞。主要指標を設定してCSRマネジメントをグループで強力に推進。



【伊藤忠商事】  
 7つあるカンパニーごとにCSR目標を設定、各経営企画部門にて取り組みを推進。外部ステークホルダーから積極的にレビューを受ける。



【野村総研】  
 前年の全役員レビューをもとにCSR活動のPDCA報告を強化。



【第一生命】  
 CSRを経営基本方針からつながる首尾一貫した経営品質向上の活動として全社で取り組む。経営とCSRの一体化を積極的に推進。



【住友林業】  
 CSR重要課題(マテリアリティ)を特定。数値指標を伴ったマテリアリティの活動報告を推進。



【住友林業】  
 第14回環境報告書(東洋経済新報社主催) 最優秀賞受賞。事業において中心となる木材資源についてライフサイクルでの詳細な説明を行う。



【富士ゼロックス】  
 引き続きCSR主要指標をもとにグループ一体でCSRマネジメントを推進。中国における従業員支援プログラムなど本質的な活動に取り組む。



【ブリヂストン】  
 CSR「22の課題」を軸にCSRマネジメントを展開。社長を交えたステークホルダーダイアログを経年で実施。



【住友金属鉱山】  
 GRIのアプリケーションレベルA+を取得。海外グループ企業を含めた情報開示を積極的に推進。

### 2010年【40社】



【伊藤忠商事】  
 本業と直接結びつくテーマでステークホルダーダイアログを実施。

# 提言

## グリーンマーケットの更なる拡大にむけて

### ～バックカスティング思考を重視した施策の必要性

#### 2050年の低炭素社会ビジョンを基本とした市民と企業の未来シナリオの策定

持続可能な社会（未来）に向けて、

- どのような規制やインセンティブが有効か
- 人々の意識の醸成につながるのか

具体的にいくつかのロードマップを描いていく。

その中で、マイルストーンとして何がそれぞれ必要なステップとなるかを具体的に提示していく。（今までの施策についても鳥瞰的に眺めて、プロットしてみることで整理ができる）

#### 【意識からの変革】

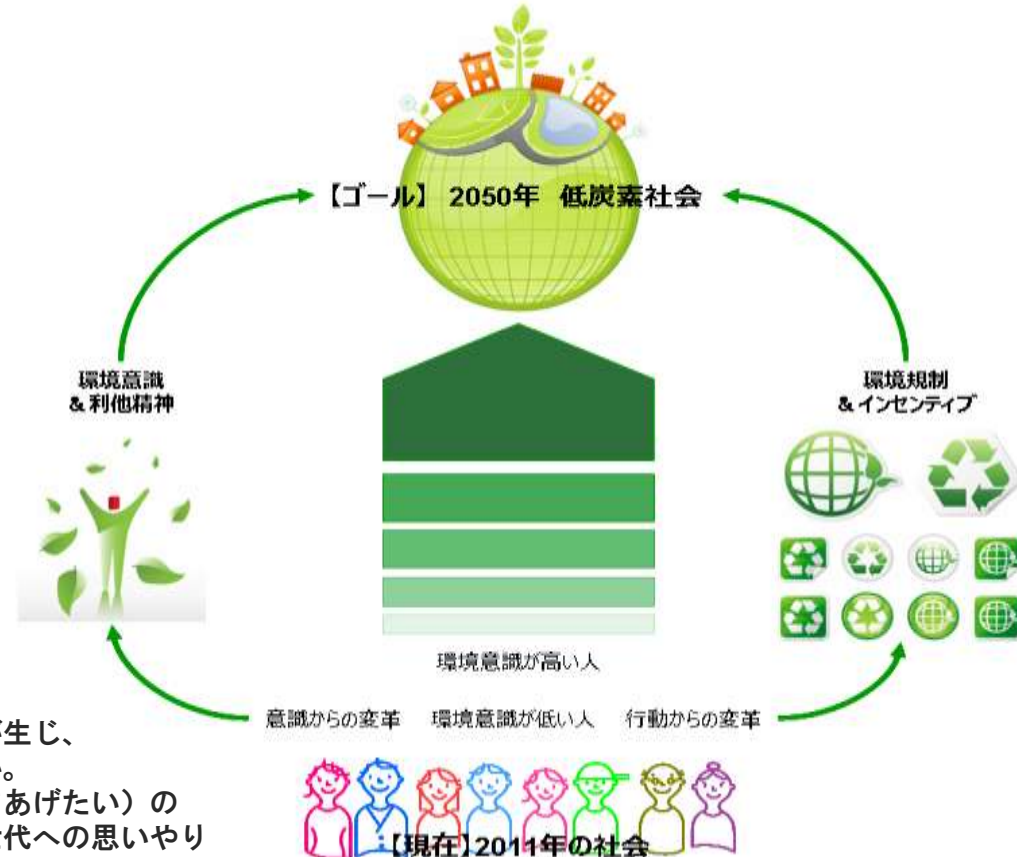
企業の環境コミュニケーションの一環として推進（特にマスメディア、ソーシャルメディアのCSRとしての推進も強化）。同時に市民団体とのエンゲージメントも実行。ベストプラクティス集を作成することで企業のレピテーションアップにもつなげる。

#### 【行動（ライフスタイル）変革】

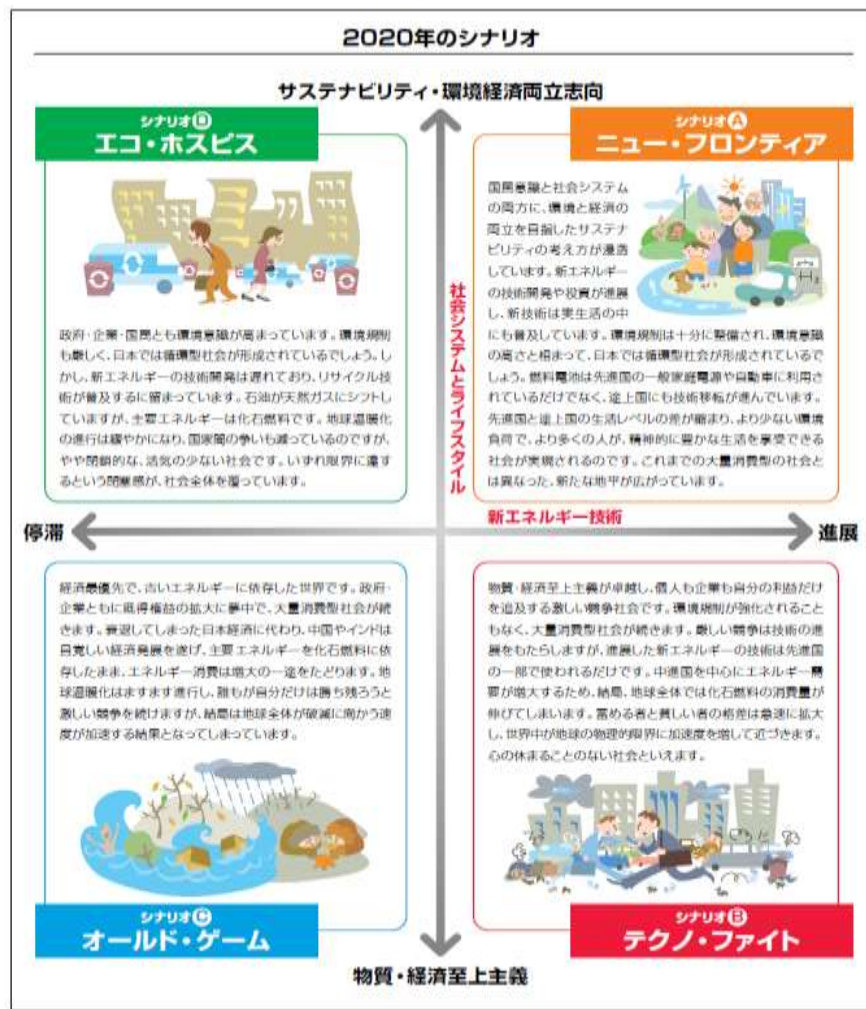
単なる規制やインセンティブではなく、結果がイメージでき、参画する人への学習効果が期待され、倍数となるような波及効果のある方法を重視する

※東日本大震災後の意識変化の調査すべき。

仮説ではあるが、この度の震災でエネルギーへの問題意識（原発）が生じ、そこから省エネ、省資源などの意識と行動が喚起されたのではないかと。また、今の他者を思いやる利他の精神（何か自分にできることをしてあげたい）の高まりを沈下させずに、今後、他者（被災者だけにとどまらず、次世代への思いやりや途上国など）への配慮につなげていく。そのためのコミュニケーションのあり方についても検討を重ねていく。



# (参考)シナリオプランニングの考え方 シナリオ作成の事例(二軸四象限によるシナリオ)



・シナリオプランニングとは、  
未来に起こり得る変化をあらかじめいくつかのパターンで  
想定し、それぞれの対応策を検討しておくものです。

・未来に向かう過程では、いくつも想定外の事態が  
起こることが考えられますが、あらかじめ検討しておいた  
戦略を用いることで、目標達成に必要な修正を短期的に  
することが可能です。

左の事例は、2003年に新日本石油(当時)で行った  
シナリオプランニングの結果です。

2020年の社会と自社の役割を考えるため  
縦軸に「サステナビリティ・環境経済が両立する志向が強くなった  
場合」と、「物質・経済至上主義になった場合」、  
さらに「新エネルギー技術が停滞した場合」「進展した場合」を横  
軸にとり、4つの世界を想定しました。

目指すべき方向を明確にしたことで、  
石油業界としては最先端事例として、  
総合エネルギー会社を目指して、いち早く新エネルギー  
分野に本格的に進出することができました。